

11月

November

IARC (国際がん研究機関) The Cancer Atlas第3版を発売

WHOのがん専門機関であるIARCは、ヌル・スルタン(アスタナ、カザフスタン)における世界がんサミットにおいて、米国がん協会(ACS) および国際対がん連合(UICC) と共同で、The Cancer Atlasの第3版を発売しました。これは、世界中のがんに関する必須の情報について視覚的、包括的な概要をまとめたものです。危険因子、予防・治療、地理的特性、生存率など現時点での概要が掲載されています。

都市における主な死因に関する報告書

世界の人口の半分以上は都市に住んでおり、その数は増え続けています。10月31日(世界都市デー)、WHOは都市における主な死因に関する報告書『都市の力: 非感染性疾患と道路交通傷害への取り組み』を発売しました。心臓病、たばこ、卒中、がん、糖尿病などの非感染性疾患により4100万人が、また交通事故で135万人が亡くなっています。この新しい報告書は、自治体首長、政策立案者らが主要な死因

に取り組むためのガイダンスとツールを提供しています。

WHO、アフリカから東地中海地域に及ぶ洪水被害者を支援

2019年、連続した嵐、サイクロン、豪雨に襲われ、アフリカから東地中海地域は大洪水に見舞われました。このため100万人を超える人びとが甚大な被害を受けています。WHOは、政府や他の国連機関およびパートナーと共に、コレラ、腸チフスなどの感染症の発生リスクを減らすために取り組んでいます。

女性性器切除(FGM) の健康上のリスク

女性性器切除(FGM : Female genital mutilation) には健康上の利点はなく、少女や女性に多くの害をもたらします。それは、健康リスクに直結するのみならず、女性の身体的、精神的、性的健康および人生全般にわたる幸福に悪影響を及ぼすさまざまな長期の合併症につながります。FGMは有害な慣習であり、人権および公衆衛生の観点から許しがたいものです。

WHOはすべての形態のFGMに反対しており、患者または患者の家族が医療提供者にFGMを要望した場合でもFGMを実施しないよう強く要請します。

芸術活動と健康に関する初の報告書

WHO欧州地域事務局は、健康と福祉の向上における芸術の役割について世界的なエビデンスをまとめた報告書を発表しました。900件を超える世界の研究結果を包括的にレビューしました。その結果、従来の医療では課題を抱える生涯にわたる病気の予防、健康の促進、病気の管理と治療について、芸術が新たな役割を提供するものと評価しています。

エボラワクチンを事前認証、ハイリスク国での使用へ道筋

WHOは、エボラワクチンについて第一号となる事前認証を行いました。これはエボラのアウトブレイクのリスクの高い国々でのワクチンの承認、使用、普及を加速する重要なステップです。事前認証(PQ認証) とは、ワクチンが品質、安全性、有効性に関するWHO基準を満たしている

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



ことを意味し、国連機関やGavi (The Global Alliance for Vaccines and Immunization) は、このWHOの推奨に基づいてリスクのある国向けにワクチンを調達できます。今回認証を行ったのはメルク社の「Ervebo」です。

WHO、インスリンの事前認証プログラムを開始

WHOは、低中所得国における糖尿病の治療を強化するために、ヒトインスリンの事前認証パイロットプログラムの開始を発表しました。インスリンのWHO事前認証は、国際市場において品質が保証された製品の流通を増やすことにより、利用を促進し、各国により多くの選択肢を提供し、患者に低価格で提供することが期待されます。現在、低中所得国においてはインスリンの価格が治療に対する障壁となっています。3つのメーカーがインスリンの世界市場の大部分を独占しており、多くの人々や国にとっては法外な価格を設定しています。

発展途上国のし尿回収等の衛生労働者の労働条件に関する報告書

発展途上国の何百万人ものし尿回収等の衛生労働者が、健康と命が危険にさらされ、尊厳と人権が侵害される状況で働くことを余儀なくされています。し尿回収等の衛生労働者は、人間の健康を守る鍵となる必須の公共サービスを提供します。彼らは最も社会的に疎外され、貧しく、社会の構成員に対して差別されており、設備、保護、法的権利がない中で仕事を遂行しています。この報告書は国際労働機関、WaterAid、世界銀行と共同で作成された、これまでで最も広範な世界的研究です。国や開発パートナーに向けて、政策、法律、規制の改革など4つの行動分野を示しています。

インフルエンザから身を守る5つの簡単な方法

インフルエンザ(インフルエンザ)の最も一般的な症状には、発熱、乾いた咳、頭痛、筋肉痛、関節痛、のどの痛み、鼻水などがあります。毎年、何百万人もの人々がインフルエンザにかかっています。ほとんどは1週間以内に回復しますが、不運な少数の人にとっては、インフルエンザは致命的です。あなたと周りの人びとを守る簡単な5つの方法があります。1. 予防接種を受ける2. 定期的に手を洗う3. 目、鼻、

口に触れないようにする4. 患者の近くにいかない5. 気分が悪いときは家にいる。

12月

December

WHO事務局長、コンゴの医療従事者の勇気を賞賛

WHOのテドロス事務局長は、武装勢力の攻撃を受けたエボラ対策スタッフを訪問し、命を張って活動する勇気を賞賛する共に、セキュリティ責任者に一層の安全対策の努力を求めました。今年になってから医療施設への攻撃は約390回で、11人が死亡し、83人が負傷しています。2018年8月以来、エボラ感染者は3300人以上、うち死亡者約2100人となっています。

WHO、気候変動と健康に関するオンライン・トレーニング・コースを開始

COP25の開催(1日～13日、マドリード)に先立ち、WHOは、気候と健康に関するオンライントレーニングを開始しました。コースは次の6つのモジュールに分かれています。①健康と気候に関する紹介②国連での交渉の歴史③パリ協定・現在の交渉のトピック④国連の気候交渉と「健康」について⑤交渉の流れと「健康」について⑥オンライントレーニング・コース

COP25、グローバルヘルス強化のための5つのアクション

国連気候変動枠組み条約第25回締約国会議(COP25)はパリ協定を最終決定する重要な会議です。WHOは5つの重要な行動を推奨しています。(1) 二酸化炭素排出量を削減するとともに、2030年までに「大気汚染ガイドライン」の値を達成する。(2) 気候変動対策と公衆衛生への投資を約束する(3) パリ協定の中心に健康を置く(4) 気候変動から健康を守る国の政策実行を監視する(5) 気候変動対策による健康の相乗効果を評価促進する取組み

気候変動の脅威は増す一方、対策資金は不足

気候変動への対策は喫緊の課題です。しかし多くの国で対策計画の実行は十分ではありません。調査対象101か国のうち半数は健康と気候変動の戦略を策定あるいは計画していますが、その一部でも実行するための資金を持っているのは約38%であり、完全に実行するリソースを持っているのは10%未満に過ぎないとしています。

世界マラリア報告書2019：さらなる努力が必要

WHOの報告書によると、去年は2億2800万人が感染し、推定で45万人が死亡しています。妊婦と子供がもっとも感染しやすいグループです。資金不足が大きな障壁となっており、去年のマラリア対策資金は27億ドルで、グローバル戦略の目標50億ドルを大きく下回っています。

麻疹急増、世界で14万人以上が死亡

WHOとCDC(米国疾病管理予防センター)の推定によると、麻疹により2018年に世界中で14万人以上が死亡し、死亡者のほとんどは5歳未満の子供たちです。この10年間の世界の予防接種率は停滞したままです。最近の研究により、麻疹は数か月から数年間にわたり免疫システムの低下等、健康に影響を与えるとされています。

食品由来の疾病には、新しい技術と透明性が必要

細菌、ウイルス、寄生虫、化学物質など

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



に汚染された食品は下痢からがんまで200以上の疾病をもたらし、世界で6億人が罹患していると推定されます。WHOはこの緊急事態を追跡する技術への投資と、国境を越えた広がりやリスクを防ぐための情報の共有化・透明性確保を訴えています。

WHO事務局長に対しNCDs (非感染性疾患) 抑制に向けて8つの勧告

WHOの独立ハイレベル委員会は、死因の70%以上をNCDsが占めていること、特にメンタルヘルスの重要性にも焦点を当て、2030年までにSDGs3.4を達成するために、WHO事務局長に8つの勧告を提出しました。各国政府が戦略的リーダーシップを果たすこと、NCDsとメンタルヘルスの予防や治療をユニバーサルヘルスカバレッジの必須事項とすることなどが人的資本と経済成長の鍵であるとしています。

天然痘撲滅40周年

3000年にわたり人びとを苦しめ、20世紀だけで3億人も殺した天然痘は、1979年12月9日に撲滅が確認され、1980年5

月の世界保健総会でWHOは公式宣言を発表しました。この成功により、世界中で国内予防接種プログラムの基礎が築かれ、多くの国でプライマリヘルスケアの確立を支え、ユニバーサルヘルスカバレッジに向けた勢いを生み出しています。

栄養の不足と過剰にはさまれる低・中所得国

各国の食料システムが急速に変化する中で、低栄養と肥満が同時進行しており、両面へのアプローチが必要です。特に低・中所得国で問題になっています。世界では約23億人の子どもと大人が太りすぎの一方で、1億5000万人以上の子どもが発育不良と推定されています。

COP25 : 「クリーン・クッキング」イベント開催

世界では未だ30億人以上の人びとが大気汚染の原因となる燃料と技術を使って調理をしており、その結果、家屋内の空気汚染で年間約400万人が死亡しています。また、世界の二酸化炭素排出量の約25%はこのような非効率な調理によるものであり、森林消滅の主な原因でもあります。WHOを始めとする国際諸機関によって

健康とエネルギーの新しい行動プラットフォームが立ち上がりました。

WHO : UHCを提供する女性の不平等を是正する

12月12日はUHCデーです。伝統的コミュニティにおける健康とソーシャルケアのリーダーシップの70%が女性の働きによっていますが、女性は低い地位、低賃金の状態に置かれています。UHCの実現には、「男性が主導し女性が提供する」という現実を変える必要があります。WHOは2020年を『看護師と助産師の年』とし、地域社会から世界レベルまでの女性のリーダーシップの役割を検討します。

乳がん治療の選択肢が拡大

WHOはバイオシミラー医薬品であるトラスツズマブを事前認証しました。2018年には210万人の女性が乳がん罹患し、63万人が亡くなっています。その多くは高価な医薬品の治療を受けることができなかったためです。モノクローल抗体であるトラスツズマブは必須医薬品のリストに掲載されています。バイオシミラー医薬品は先発品に比べて65%安くなっており、世界中の女性にとって朗報です。

1月

January

看護師と助産師の年

看護師と助産師は、健康サービスを提供する上で重要な役割を果たします。予防接種を行い、アドバイスし、高齢者を世話しながら日々の基本的なニーズに応え、コミュニティにおけるケアの唯一の接点です。世界保健総会は2020年を看護師と助産師の年に指定し、看護や助産への投資の増加を提唱しています。

中国で原因不明の肺炎

2019年12月31日、中国湖北省武漢市から病因不明の肺炎が報告されました。2020年1月3日現在、この肺炎に罹患した患者44人が、中国政府からWHOに報告されています。44症例のうち、11症例は重症であり、残りの33症例は安定した状態です。WHOは状況を綿密に監視しており、中国の各国当局と緊密に連絡を取り合っています。

新しい年の健康的な食事の5つの秘訣

私たちが食べたり飲んだりすることは、身体的能力に良い影響を与えると同時に、肥満、心臓病、糖尿病、さまざまな種類の癌など、人生の後半に発症する健康上の問題にも影響します。文化の違いを超えて、私たちがより健康で長生きするため

の一般的な食べ物の秘訣があります。

《5つの秘訣》

- 様々なものを食べる
- 塩分を減らす
- 特定の油脂の使用を減らす
- 砂糖の摂取を制限する
- 危険で有害な飲酒を避ける

コンゴの麻疹死亡者6000人超え

コンゴ民主共和国(DRC)で麻疹による死者数が世界最悪の6000人を超え、対策資金が必要です。コンゴ保健省、WHO、Gaviなどの主導の下で、2019年には2760万米ドルを費やして5歳未満の子ども1800万人以上にワクチンを接種しました。しかし定期接種率は25%にとどまっています。集団発生を抑制するために、さらに4000万米ドルが必要だとしています。

WHO:今後の10年は「行動の10年である」

WHOは新年と次の10年の開始にあたり、世界中の専門家の意見を基に今後10年の緊急のグローバルな健康課題を発表しました。これらの課題は容易ではなくとも、手が届くところにあります。公衆衛生は最終的には政治的な選択であり、健康は将来への投資です。すべての課題に

は医療部門以外からの対応が必要であり、今後の10年は「行動の10年」でなければなりません。

タイの新規コロナウイルスに関するWHOの声明

WHOは、タイで中国の武漢からの旅行者が1月8日に新型コロナウイルスに感染していたと確認されたことについて、タイと中国当局者と協力して対応している旨を発表しました。WHOはアクティブモニタリングの強化継続を求めています。

エボラ対策の困難な補給活動

政情不安なコンゴ北東部のエボラ対策のために、800台以上の車両、飛行機1機、ヘリコプター2機、4台のトラック、410台のオートバイ、37台の救急車が必要です。

新規抗生物質の開発が薬剤耐性対策に必要

WHOは、新規抗生物質の開発におけるイノベーションと民間部門の投資が不足しているため、薬剤耐性感染対策の努力が脅かされていると発表しました。開発中の60の製品は既存のものに比べてほとんど利点がないことに加えて薬剤耐性

本ニュースは毎月配信するメールマガジンに掲載した記事を、インデックスとしてご利用いただけるよう再掲載したものです。QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



上、最も重要なグラム陰性菌を標的とするものは殆どありません。

政治的公約から強固な具体化へ；2020年はUHC前進の年へ

2019年はUHCにとって画期的な年でした。9月の国連総会で政治宣言に合意し、10月には140か国の指導者がUHCに関する包括的な決議を採択しました。安倍首相は12月のワシントンポスト紙の意見記事の中でテドロス事務局長と対談し、日本の経験からUHCは開発の基盤であると述べました。

喫煙は術後合併症リスクを大幅に増加

喫煙者は、心臓および肺の機能障害、感染症などを始めとして、創傷治癒の遅延を含めた術後合併症のリスクが非喫煙者よりも著しく高くなっています。共同研究によると、手術の4週間以上前に禁煙すれば合併症のリスクが低くなり、術後6か月間にわたって良好であることも明らかにしています。

新型コロナウイルス、緊急事態宣言は時期尚早：IHR緊急

急委員会(1月23日)

1月23日、WHOは新型コロナウイルスに関するIHR(国際保健規則)緊急委員会を開催しましたが、緊急事態宣言を時期尚早として見送り、必要であれば10日後に再度討議することとしました。

ガイド付き自助介入：難民の心理的苦痛を軽減

ガイド付き自助介入の方法(SH+)によって、南スーダンの難民女性の心理的苦痛が改善されたという結果がThe Lancet Global Healthから発表されました。(備考)Self-Help Plus(SH+)はメンタルヘルス支援を目的としたもので、専門家ではないファシリテーターが指導する、グループを対象とした自助介入の方法。

世界ハンセン病デーのメッセージ

1月26日の世界ハンセン病デーに際して、WHOハンセン病撲滅大使の笹川陽平氏のメッセージは以下の通りです。

- ・今日、ハンセン病は容易に治る病気ですが、不当な差別に苦しんでいる人びとがまだいます。
- ・私たちは病気と闘うだけでなく、社会の偏見と差別とも闘わなければなりません。

・ハンセン病は恥ずべき病気だと考えているため、往々にして人びとは診療所や病院にいかないことが、最大の障害のひとつとなっています。

・ハンセン病は過去のものとなった病気ではありません。ハンセン病に罹った人々の生活を変えるために私たちに何ができるかを考え、今日を新たな始まりにしましょう。

テドロス事務局長、習近平国家主席とコロナウイルス対策を協議

1月28日に行われた会談では、新型コロナウイルス2019(2019-nCoV)の集団発生に関する最新情報を共有し、抑え込むという公約を繰り返しました。WHOは中国が実施した措置、迅速なウイルス特定、WHOや他の国との情報共有の透明性を高く評価しました。

その他、次のニュースが発信されています。

電子たばこは危険か？Q&A

最悪の危機的状況にモバイルクリニックと医療チームを提供

今月のファクトシート改定

1月には以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。

<https://www.japan-who.or.jp/act/index.html>

・看護と助産 <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/000Nur.pdf>

・マラリア <https://www.japan-who.or.jp/act/factsheet/094.pdf>